鈴鹿市民の
コミバスをよくする会ニュース
（第２１号・２０１７年２月発行）

発行：（略称）**コミバスをよくする会**
事務局（仮）：辻井良和 方
〒510-0234 鈴鹿市江島本町31-36
電話 059-386-0529 FAX 059-386-0646

今年は市長に届けたい「生活バス」の提案を

新しい年が始まりました。今まで市民の皆さんにアンケート活動をお願いして来ましたが、１万人の目標はまだ集まっていません。現在４，４００を超えましたが、更に力を入れて目標を追求したいと思います。そして今年は、末松市長に、高齢者対策として、また、車を持たない市民の皆さんの生活交通の保障としての「無料の生活バス」を提案したいと思います。

いま全国で、高齢者がからむ交通事故が強調されていて、高齢者の運転免許を返上するように勧める傾向が強まっています。しかし、鈴鹿市のような広い市域に住宅地や集落が散らばって存在する都市では、市役所や市民会館、文化会館や図書館、各地の公民館などの文化施設、社会福祉会館や保健所、各地の病院などへ行こうとすると、バスは少なく、タクシーをいつも使うには懐が淋しいなどと困り、何時までも自動車が手放せないというのが市民感情です。

コミバスの会では毎年、見学会を催し、各地の無料バスやオンデマンドバスの実施状況を見て回ると、成功しているところと、あまり利用されていないところなどまちまちで、その中で無料のオンデマンドバスを走らせる玉城町のモデルが全国的に成功していることが認められます。

有料で行っているところは、百円のところはよく利用されていますが、二百円三百円となると、利用は限られ、実施時よりもだんだん減っていく傾向があります。路線バス方式とオンデマンド方式では、オンデマンド方式が喜ばれています。これらを考えると、市域の広い鈴鹿市では、私たちが提案している「無料のオンデマンド方式」は、始めればたちまち利用者の広がりが目に見えています。その経済効果も大きいものとなります。

会員の皆様に、アンケート活動の一層の発展をお願いして、新年のご挨拶といたします。

コミバスの会会長　辻井 良和

アンケート用紙は、お電話頂けば何枚でもお届けします。

東京大学のオンデマンド交通システム、コンビニクルの現場を初めて見ました。パソコン２台と各ワゴン車にタブレット端末１台でした。

これなら大きな設備投資を必要とせず、やるとならばすぐにでもできると思う。バス利用料１回２００円はけっこう高いと思います。無料にすればもっと利用者が増えると思う。（樋口　出）

発車オーライ

★「体の調子が悪くて、病院に行こうとタクシーを頼んだら往復五千円払ったよ。病院で三千円払っておろおろ一万円かかったわ」

「子どもが居ないので車に乗せてもらう人がなくて、病気が悪くなってから救急車でも呼ぼうと考えている」

★病院は毎日は行来ませんが、食べるものは毎日買い物に行きます。バスに乗っては、決まったところしか行けないので、あちこちチラシに合わせて買い物したいのにと、主婦の声もあります。

★中学生や高校生は、無料で本が読める鈴鹿市図書館に行きます。自転車で行く人が多いけれど、少し離れた町ではなかなか図書館へは行けません。自転車用の道路整備が出来ていないので、自動車に追い立てられたり、右側通行で交通違反が問題になります。

★「お金がかかるって言うけど、鈴鹿市が予算を付ければ、利用者一人あたりの費用は無料の方が安くつくんだそうだ」オンデマンド方式（行き先予約方式）は、少し待っても確実に行きたいところへ行けるので、利用者の満足度は高いものとなります。

リアルな夢想
「呼べば来る、われらのバス」

車の運転について、ワイフは「夜間と雨には気をつけて」と言うけれど、「止めよ」とは言わない。運転には自信があると思っていたが、イエローカードである。

昨年来、縁石に乗り上げ、溝にはまり、二度レスキューされる。高齢者講習会では、S字カーブでアッパレ脱輪。免許証返納したいけれど、「足」が必要である。オオクワやコンビニまで2キロはある。週一度くらいはバナナやサンマを食べたい。マイカーに替わる手立てが欲しい。

養老町のオンデマンド視察の報告によれば、パソコン2台を操作できる場所があればよいそうである。コミバス役員の上田町に住まう田中美代子さんの話では、石薬師公民館に場所はある。一隅がコントロールセンターになる。範囲は、石薬師・上田・上野・レインボー石薬師・河曲・木田などの地区に一台、オンデマンドバスを走らせる。無料がいい。前回のコミバスニュースに三重県地域連携部交通政策課長・富永健太郎氏の小論が引用されている。「高齢者の外出や歩行を促し健康面でプラスになれば、医療費や介護費の削減にもつながり」という視点もある。市がその気になれば夢想ではない。家内に告げた、「電話すれば、オレの車が来るぞ」。（加藤正美）

養老町オンデマンドバス見学に参加して

高齢者が元気に暮らす町に

近頃、高齢者によるブレーキとアクセルの踏み間違いが原因の事故が多く報道されています。そのようなニュースを目にする度に、自分も当事者になる可能性があると思うとぞっとします。

悲惨な事故を起こさないために免許証返納を考えなければいけませんが、現実問題として生活が不便になるため、なかなか難しい問題です。通院や買い物、スクエアステップやカラオケ等、様々な場所へ出かけることにより、人と人の交流があり、社会とつながり、たくさんの元気をもらい、明日への活力につながります。

高齢者が生き生きと生活でき、そして、健康寿命が少しでも延びることを、皆が望んでいます。石薬師地区、特に1号線より西部は交通がとても不便です。一刻も早く、交通弱者の足を、生活交通確保していただき、暮らしやすい町づくりに力を入れてほしいものです。市民の立場になって、前向きに進めてほしいと切に願っています。　（田中美代子）

高齢者の足の確保は、行政の重要な政策課題

国の資料によると、この30年で日本人の平均寿命が約10年伸びているらしい。長生きできるようになったのはうれしいことだが、その一方でいろいろな問題も浮かび上がってきている。

そのひとつが、高齢者の交通事故。逆走だったり、ブレーキとアクセルの踏み間違えだったり。悲しいことだが明日は我が身、いつかは免許返上の日もくるだろう。そこで、高齢者の足をどう確保するかが行政の重要な政策課題といえる。

そんななか、先日、オンデマンドバス（乗り合いタクシー）を導入している岐阜県・養老町にその現状を見学させてもらった。「養老の滝」の故事にちなんだわけではないと思うが、高齢者にやさしい街づくりが進んでいるなと思った。

同町では民間のバスも走っているが、乗り合いバスは「座れるだろうか」「乗り降りの時にモタモタして迷惑かけないだろうか」など、いろいろ考えるとつい利用するのがおっくうになりがちだと思う。オンデマンドバスは定員が数人乗りのワゴン車で室内の雰囲気も家庭的。「どちらまで？」と同乗の方とおしゃべりするコミュニティの場にもなっているのでは。料金面（1回の乗車200円）を含め、改善の余地もあるとは思うが、私たちの街にもこんな制度があればいいなと思った。　（谷口　茂）